五歳児の記録⑦

二学期

磯部景子
堀合文子
津守真

九月十四日　月曜日　晴

子どもたちの朝のようす。
聖火のトーチができる。
帰る集まりの時に「きゅうぴいの歌」をうたう。

九時

子どもたちが十名くらい登園している。登園したほとんど全員の子どもが桜の木の下に集まって、それぞれ何かいっている。

Ⓙがみんなを指図してリレーをはじめようとする。

「わたし、応援団」「わたし、白い組」などと、他の子どもたちは、てんでに何かいっている。

Ⓙは皆を並ばせて、組をきめようとするが、他の子どもたちは、「白のバトンがない」などという。

並びかけた列はくずれてくる。

◎がどこかへ行きかけると、

Ⓙ「◎ちゃん、応援団になって」といって、Ⓙは◎をひきとめる。Ⓙはそれから、走って保育室にバトンをとりに行く。

先生は保育室で黒板に、九月と十月はじめの予定表を書いている。子どもたちにわかるように大きく書いている。

「おべんとうがはじまるひ
しゅうぶんのひ
うんどうかい」などがすでに記入してある。

Ⓙは庭から保育室につづく石段のところに立って、いそがしそうに、

Ⓙ「せんせい、白のバトンがないの」という。

先生はⒿの声をきいて、いそいでバトンをみつけてくる。

先生「よいしょ、いっぽん、ちゃんとくみをきめてね」といいながら

ら、Ⓘにバトンをわたす。
Ⓘはいそいでみんなのところに走っていく。
先生は、それからまた黒板に向かってつづきをかく。

Hが登園して庭に出る。桜の木の下に走っていく。
H「リレーに入れて」という。仲間に入れてもらえない。
桜の木の下は相変わらずごたごたしていて、リレーははじまらない。
Hは仲間にしてもらえないので、おこって保育室に入ろうとする。
Tが登園して庭に出てくる。
HはTをみつける。
H「ね、リレーやらない?」とTをさそう。
Tはうなずいて、保育室にバトンをとりに行く。
Hも保育室に行き、Ⓘたちに入れてもらえなかったことを先生に訴える。
H「せんせい、Ⓙちゃんたちが入れてくれないんだもの」
Tはにこにこして、バトンを持って保育室から出てくる。Hも保育室から出てくる。
T「ふたりでぐるぐる、ぐるぐる、二しゅうでも、三しゅうでも走ればいいよ」といいながらTはあたりを歩きまわる。
Hはまだおこっている。
TはHのようすにきづいて、
T「女でもいいから入れようよ」といって、仲間をさがしはじめる。
Iがとおりかかる。
T「おい、のっぽ、リレーをやろうよ」とTはIをさそう。

Hは一方的に自分のおもったとおりにしようとすることがあって、他の子どもにうけ入れられない場合がある。
Hはおおぜいで、組に分かれたリレーをしたいと思っている。ふたりで走る気持はない。
Hは走るのが速いし、何をする時も闘志満々である。
Tはいつも遊んでいる過程を楽しんでいる。
Tはいっしょうけんめい走るのだが、あまり速くない。

Hはリレーをしないで保育室に入って絵をかきはじめる。Tも保育室に入る。

九時十五分

桜の木の下に集まっていた子どもたちの中で、砂場に行くもの、保育室に入って絵をかきはじめるものなどがでてくる。結局リレーははじまらない。
Ⓙは木鬼をしようと提案する。
Ⓙ「木鬼するもの、この指とまれ」という。

しかし、だれものってこない。
Ⓙも保育室に入る。
Ⓙは自分のひき出しから画帳を出してくる。

先生は黒板に予定をかきおえて、庭に出る。
Ⓨは保育室に向かってぶらぶら歩いている。
先生はⓎをみて、
先生「Ⓨちゃん、リレーをやめたの？」とたずねる。
Ⓨはうなずいて保育室に入る。
Ⓨは保育室でHたち八名が絵をかいているのをみて、
Ⓨ「そうだ、おえかきしよう」といってクレヨンと画帳を持ってくる。
先生は保育室に入ってくる。絵をかいている子どもがおおぜいいるのをみて、机を移動して絵をかく場所を広くする。

九時三十分

Ⓚは砂場から入ってくる。先生のところに行って、
Ⓚ「せんせい、レコードをかけるようにしてちょうだい」という。それから何もしていないⒹに、
Ⓚ「Ⓓちゃん、バレーしましょうよ」とさそう。
Ⓓは首を横にふって、
Ⓓ「絵をかくの」といって、画帳をとりに行く。
Ⓚ「そうだとおもった」といって、Ⓚはおこった顔をする。が、間もなくひとりでとびはねはじめる。
先生はコードをコンセントにさしこむ。
先生「Ⓚちゃん、電気入っているわよ」という。
Ⓚ「いまね、せんせい、かんがえているの。ひとりじゃ、やってもしょうがないから」という。
結局、バレーもはじまらない。
Ⓚも画帳を出してくる。
先生は庭にいる子どもたちのようすを見に行く。
たいこ橋のところで、Ⓜ、Ⓒ、Ⓝ、Ⓓがはなしている。
砂場では、E、M、Nがあそんでいる。

十時

Ⓙ、Ⓚ、Ⓞ、Ⓤ、Ⓢが庭で鬼ごっこをしている。鬼ごっこがおもしろそうにつづく。
ⒿもⓀも楽しそうにあそんでいる。

Ⓙは友だちを支配して、リレーをしようとしていたが、実現しなかった。
Ⓚもだれかといっしょにバレーごっこをしようとしていたが実現しなかった。
それぞれのあそびが実現しないで、みんな絵をかきはじめる。絵をかきながら、幼稚園に来る途中でみたことをはなしたり、そのほか、いろいろなことをはなしたり、いい合って

いるうちに、いっしょにあそぶ気運が生じてきて、庭で鬼ごっこがはじまる。

十時四十五分

保育室で先生のまわりに男児五名、女児四名が集まっている。

先生を囲んで子どもたちが何かさかんにはなしている。

先生も子どもたちとはなしている。先生は子どもたちとはなしながら、聖火リレーのトーチをつくっている。

「ほんとに火がもえるの？」

「わたをつけるといい」

「ほんものかとおもった」

「テレビでみたよ」

「ぼうっともえているよ」

「けむりがでるだけなんだよ」

「わたに、あかちんつけるといいよ」などと、トーチのことが話題になっている。

まもなく、トーチができあがる。

先生のすぐ近くのコーナーでは、Aたちがブロックキャップと床上積木で高速道路やビルディングをつくっている。

十一時三十分

帰る集まりの時に「きゅうぴいの歌」をうたう。

九月になって久しぶりに記録をとって感じたこと。

夏やすみがおわって、久しぶりに子どもたちをみると、ひとりひとりの子どもの個性がはっきりしてきたように思える。だれもが自分の思っていることを主張しているのがめだつ。

○混乱状態がはっきりしている。

○自分が提案したあそびを友だちといっしょにしたい。

○自分の意見をおしつける→失敗→どうしたらよいかを考える。

○人をみとめる能力ができている。

九月十五日　火曜日　晴

子どもたちの朝のようす。

運動会の遊戯の練習。

八時四十五分〜十時十五分

保育室

子どもが家から持ってきたおしばなをかこんで、はなす。

子どもが家から持ってきた雨がえるをかこんで、かえるをみながらはなす。

床上積木、ブロックキャップであそぶ。絵をかく。本を読む。

庭

たいこ橋、鉄棒、ブランコ、ジャングルジム、つり輪であそぶ。

自動車を押す。ままごとをする。（山→庭と移動）聖火リレーをする。

十時十五分

片づけをする。

十時二十五分〜十一時十五分

運動会の練習をする。

きゅうぴいの歌をうたう。遊戯をする。動物行進曲の遊戯をする。

十一時十五分〜十一時三十分

帰園の時間までいすさがしのゲームをする。

十一時三十分

帰園。

八時四十五分

保育室で先生は子どもが持ってきたおしばなを四、五人の子どもといっしょにみている。先生はおしばなをひとつひとつとりあげながら、まわりにいる子どもたちとはなしている。

先生「これはすけてみえてきれいね」といってすかしてみる。

それからおしばなを机の上にひろげておく。

まもなく子どもたちは、それぞれ庭に出てあそびはじめる。

E、M、Nは昨日と同じメンバーで砂場であそびはじめる。

HとOはふたりで手をつないではなしながらたいこ橋に行く。

Cはひとりで自動車を押している。

Ⓜがビニールの袋に雨がえるを入れて登園する。袋の中には雨がえると草が入っている。Ⓜは先生のところに行って、持ってきた雨がえるを先生にみせながら、雨がえるのことをはなす。先生はⓂのはなしを楽しそうにきく。

先生はⓂからビニールの袋をうけとりながら、

先生「何か大きな器はないかしら」といって器をさがしはじめる。

Ⓜ「せんせい、石を洗って入れなくちゃ」とMは提案する。

Ⓚが登園する

Ⓚ「せんせい、お山にいってもいい？」という。

先生「いいけれども蚊がいるからさされないようにね」という。

Ⓚはうなずいて庭に出ていく。

先生はⓂといっしょに大きなガラスの器を出してきて、机の上におく。それからふたにするためにビニールの袋をきり開く。先生はⓂに、

先生「これでふたにしたらいいわね」という。

Ⓜは先生の持っているビニールをみて

Ⓜ「大きな、ビニール」とおどけた調子でいう。

Ⓜはビニールに穴をあけながら

Ⓜ「あんまり大きい穴をあけるとにげちゃうね」と先生にいう。
ⓃとUが先生やⓂのそばでかえるをみている。
Ⓝがいきなり Uをたたく。UはⓃをにらんでおこった顔をする。
先生「あら、どうしたの?」
Ⓝ「Uちゃんがへんなことをいったの」
先生「Uちゃんが何をいったかきこえなかったけれども『へんなことをいわないで』っていえばいいでしょう? たたくのはよしましょうね」という。
Ⓝはうなずく。

かえるを入れる器の準備が大体できる。先生は、
先生「はい、袋をあけて入れて下さい。大きい家にお引越してうれしいでしょうね」といってかえるの入っているビニールの袋をⓂにわたす。
先生「きれいな色ね」といって先生はかえるの入っているビニールの袋を開く。かえるがみえない。
先生「あら、どこにいっちゃったの?」といってかえるをさがす。
Ⓜ「ビニールにくっついている」
先生「さかさまにしたら、こわいかしら。大地震」といって、先生はビニールの袋をゆらす。
先生のまわりにいつの間にか、子どもたちが十二名集まっている。
先生「さあさ、お引越ですよ。ちょっと岩をみつけてこなきゃ、かわいそうよ」
Ⓜ「家にものすごい大きい石あるよ」
H「あそぼう」
Ⓜ「石をさがしてくるの」といって庭に出ていく。
先生「こんなになっている石をさがしましょう。お山に行ってさがしてきましょう」といって先生も庭に出て行く。
子どもたちはかえるをみている。
B「もてないような大きい石、あるよ」
H「Aくん、やろうよ」
A「かえるのたまごって、ふさふさしているよ」
T「このくらいのかえる、みたことあるよ」と両手で五センチくらいの輪をつくって他の子どもにみせる。
かえるは器の中でじっとして動かない。
Bがガラスの器をパンパンと指をひろげて、手のひらでたたく。
「かわいそうよ」
A「のぼる、のぼるよ、しっ」などといって、かえるをみつづける。
HはAと遊ぼうと思ってAをさそいにくるが、Aはかえるに夢中である。HはかえるをみながらAをさそっている。

九時二十分

かえるのおいてある机のすぐ近くで、I、Oたち四人が床上積木

で、はさみしょうぎをしている。しばらくして道路つくりにかわる。

「きみ、そっちの道路をつくってね。ぼくこっちをつくるから」といって、お互いに提案しながら積木をいろいろの方向に並べる。

少しはなれたところで、Y、D、Rがブロックキャップで飛行機をつくりながら、「十万ばりき」などといっている。

女児が七名絵をかいている。

Ⓜは本をみていたが、それから絵をかきはじめる。

Ⓚたちは昨日できたトーチを持って聖火リレーをはじめる。

Ⓚ「聖火リレー、外に持っていってもいい？　お山に持っていってもいい？」

と節をつけていいながら、庭に出ていく。

砂場ではEたちがあそんでいる。高い山をつくって山のあちこちにみぞをほる。みぞはふもとに近づくほど深くなっている。みぞにふるいをうめる。山のふもとにところどころ深い谷をつくる。水をくんできて、みぞに水を流す。深い谷にも水をくんできて、水をためる。

庭ではそのほか、ぶらんこ、ジャングルジム、鉄棒のところで子どもたちが遊んでいる。

九時四十五分

Ⓚが汗でぐっしょりぬれて保育室に入ってくる。

先生はⓀに洋服を着かえるようにいう。

先生「つぎをはやくかわかしておかなくちゃ」といって、Ⓚがぬいだ洋服をひろげて、出窓の手すりにほす。

Ⓒ、Ⓘ、Ⓝがままごと道具を保育室から運び出す。

ブロックキャップであそんでいたY、O、Rが砂場であそびはじめる。

先生はかえるのおいてある机にすわって、紙で何かおりながら、Cとはなしている。

先生「あまがえるよ」と、かえるのことをはなしている。

かえるが器からとび出す。

「あったいへん」といって、先生とCがかえるをつかまえようとする。

ちょうどそのとき、Ⓚが庭から保育室にかけこんできて、

Ⓚ「せんせい、聖火とれちゃった」という。

先生はⓀをみて、

先生「それよりも、かえるさんがたいへんなのよ。Cちゃん、入れて」という。

Cがやっとかえるをつかまえて、器に入れる。

先生とCが器のふたをしめる。

それから先生はⓀからトーチをうけとり、

先生「糸でまきましょうね」という。

九時五十分

Ⓚ「聖火リレーやめて、ままごとに入ろう」といいながら庭に出

ていく。

Eは砂あそびをやめて保育室に入ってくる。

Eは机の上においてあるかえるをみつけて、先生にはなしかける。

E「かえるって、雨の中にいるかもしれないね」

B「さわとか」

E「せんせい、このかえる、小さいからまだ赤ちゃんだね」などと先生にはなしかける。

先生は、Cに紙できつねを折ってあげる。

Ⓢは絵をかくのをやめて、Eのところにきてしばらくかえるをみていたが、

Ⓢ「はっぱをとってくる」といって庭に出ていく。

保育室ではK、M、Oが絵をかいている。少しはなれところで、Ⓡ、Ⓗ、Ⓓが絵をかいている。また少しはなれたところで、ⓎとⒻが絵をかいている。

Ⓡ、Ⓗ、Ⓓが絵をかくのをやめて、庭に出てたいこ橋に行く。のぼったり、両手でぶらさがったりして、そのあとすべり台にいく。

ⓎとⒻも絵をかくのをやめて、たいこ橋にいく。

Ⓕがたいこ橋のいちばん高いところに、足をかけて、両手をはなしてぶらさがる。

Ⓨはそれをみて、保育室にかけて行く。

Ⓨ「せんせい、Ⓕちゃんたら、いちばん高いところから足だけかけて、手をはなしてるの」という。

先生は蚊にさされたといってきたⒶにくすりをつけている。Ⓨの声をきいて、

先生「どれ、どれ」といって、たいこ橋の方をみるが、Ⓕはすでにたいこ橋からおりている。

Ⓨもたいこ橋の方をふり返ってⒻをみるが、Ⓕがすでにたいこ橋からおりて、鉄棒の方へ歩いているのをみて、がっかりして、

Ⓨ「もう、やるかどうかわからない」といって、Ⓨも鉄棒の方へ走って行く。

十時

山の上でままごとをしていたⒶ、Ⓚ、Ⓝ、Ⓜ、Ⓒは蚊にさされて「蚊がうるさい」といって桜の木の下に移動する。

E、T、Iがつり輪をしている。

Y、D、R、Nが砂場であそんでいる。

Ⓡ、Ⓗ、Ⓓが鉄棒であそんでいる。

十時十分

先生は庭に出て、たいこ橋や鉄棒をしている子どもたちとあそぶ。それからぶらんこに行き、ぶらんこにのってⒿやⓊとはなしている。おおぜいの子どもがぶらんこのところにいる。

HとIもぶらんこのところにくる。

Ⓚは保育室に行き、絵をかきはじめる。

十時十五分

「やーまのくーみ、おかたづけ」といいながら、先生と子どもは手をつないで保育室に向かって歩く。

保育室に入って先生は片づけはじめる。

「なにするの？」

先生「運動会の練習しましょう」

「うんどうかいのれんしゅうだよ」

「だけど、まだかたづけているんだよ」

「せんせい、まだかたづけているんだってよ」

先生「そう、じゃ、まちましょうね」といって、先生は子どもたちのまわりをそのままにして、机を保育室のすみに動かしはじめる。

保育室がだんだん広くなる。

十時二十五分

黒板に向かっていすが並べてあり、子どもたちがいすにすわる。

黒板にきゅうぴいの歌の一番の歌詞が書いてある。

先生のピアノに合わせて、みんなで一番をうたう。

「くりくりおめめのきゅうぴいちゃん

とんがりあたまのきゅうぴいちゃん

ぽーくとにらめっこ

わらったらまけよ」

先生が黒板に二番の歌詞を書きはじめる。

子どもたちがあとをついて読む。

「ぱっとおててのきゅうぴいちゃん

あんよをそろえたきゅうぴいちゃん

わたしとじゃんけん

いつでもかみね」

子どもたちはよみながら歌詞に合わせて手をぱっとひろげたり、足をそろえたりする。

先生は二番をうたいながらピアノをひく。

子どもたちは、ピアノについて二番をうたうが、みんなほとんど声は出ない。

先生「みんなのきゅうぴいさんはどうだったかしら？男のきゅうぴいさん、前にでてね。女の方、うたってあげてね」

男、女に別れて、遊戯をするグループとうたうグループになる。

女児は先生のピアノに合わせて歌うが男児は歌に合わせないで、楽しそうに、がや、がやとじゃんけんをしている。

先生「じゃんけんばかりして、にぎやかなきゅうぴいさんね。ちっとも歩けないかしら。あら、歩くのが上手なきゅうぴいさんかしら」と先生がいう。男児は少しうごく。

曲がおわる。

先生「今度は女の方ね」

男、女が交替する。

男児がうたい、女児が遊戯をする。

男児はうたっているが声が小さい。女児は歌いながら動作をつける。

先生「男のきゅうぴいさんはうたをうたっていませんでしたね。Ⓚちゃんのきゅうぴいさんは方々を歩いて、いいきゅうぴいさんでしたね。こちらの方のきゅうぴいさんは、おとなしいきゅうぴいさんでしたけど、手を出したりしてましたね。Kちゃんたち、みていた？」といって先生はKに注意をあたえる。

先生「こんどは、男のきゅうぴいさん、うたをうたってね」

男児がうたう。だいぶ大きい声になる。

先生「こんどは、みんなでうたをうたいましょうね」

みんなで、大きい声でうたう。

最後の部分、「いつでもかみね」のところをくりかえす。

先生は子どもたちの前にたって、

先生「こんどは、『いつでもかみね』のところはこういうふうに横に手をたたくのね。できるかしら」といって、先生は、身ぶりをする。

先生「『いつでもかみね、とんとん』の二回目のところで、じゃんけんするのね」といって、ジャンケンをする箇所を子どもにはなす。

先生「こんどは、みんな、『きゅうぴいさんのお手々』でパッと前に出してちょうだいね。一度出したら、よくみせてね。ひっこめちゃったら、みえないでしょう？」といって指をパッとひろげて出す。

先生「こんどは、みんな、前に出て来てちょうだいね。もう一度、はじめからね」

子どもたちは前にでてくる。先生はみんなの前に立って動作をしながら子どもたちにはなす。

子どもたちも動作をする。

先生「それから、『あんよをそろえたきゅうぴいさん』のところは、たくさん歩かないのよ。きゅうぴいさんは、お人形だからはやく歩かないのね」

先生「『わたしとじゃんけん』のところで、こんどは前に出ないとじゃんけんできないから、前にでてね」という。

先生「山の組も、川の組も、池も林も森もみんな同じきゅうぴいさんをするんですって。みんなは大きい組だから、りっぱなきゅうぴいさんにならなくちゃね。『パッと』のところ、はじめはおててを出さないのね。はじめしまっておいて、『パッと』で、だすの。さがるときは、『きゅうぴいさん』でさがるのよ」と先生は動作をしながらもう一度いう。

先生はピアノにいく。

先生「じゃ、女の方、さきにしましょうね。男の方、だれのきゅうぴいさんがいいきゅうぴいさんか、みて下さいね」

先生のピアノに合わせて女児が遊戯をする。

「こうしちゃだめね。パッと出すのよ」といって、先生は指をひろげてパッと出す。

先生「はい、こんどは男のきゅうぴいさんね」

男児がでて遊戯をする。

先生「みんな、おなじきゅうぴいさんにならなきゃならないから、

よくおぼえてね。小さいきゅうぴいさんの方がきれいだと大きい方はずかしいわね」

きゅうぴいの遊戯をおわって、次に動物行進曲に入る。

先生「こんどはちがうのね。女の方、ちょうちょになって下さいね。まわってくださいっていったら、まわるのね」といって、先生は手をひらひらさせて、足ぶみしながら小さい円を描きながら一回まわる。

先生のピアノに合わせて女児はそのようにする。

先生「それじゃ、かえりましょう」

先生「こんどは、男のちょうちょさんね。男のちょうちょさんがとんでいきましたよ」男児はがやがやしている。

「男のちょうちょさんは夏休みの前まではとってもいいちょうちょさんでしたね」という。

女児の一部の子どもが席にもどって、

先生「ちょうちょさんはふわり、ふわりってやってるのね」といって、ふわふわとまわっている。

男児は片足を軸にして、きゅう、きゅうとまわる子どもが多い。

先生は子どもの中に入ってきて、

先生「そんなに、きゅう、きゅうとまわったら目がまわるわね。こうして、大きくまわりましょうね」といって、ふわっと大きくまわる。

子どもたちもふわっとまわる。

先生「はい、まわりましょう。また、まわりましょう」

先生のことばに合わせて、子どもたちはまわる。

次は馬になる。

先生「女の方、こんどは、お馬さんになって下さいね」といって、先生はピアノをひく。

はじめのうち、女児はとまどっている。

だんだん、馬のしぐさをする。

片足とびをやって、立っている子どもが多い。

先生「お馬さん、おおぜいでいっぱいになるのね。小さいお馬さんでもいいのよ」

女児はおわる。

先生「さあ、お馬さんでかえりましょうね」

女児は席にもどり、男児がでてくる。

先生「こんど、男の方ね」

男児はほとんどの子どもが四つばいになって、がやがやする。時時「ヒ、ヒーン」といって、おしりをあげる。また、狩人になったつもりで、銃をうっている子どももいる。

先生「男の方、ずいぶんにぎやかでしたね。うったの？あら、かわいい子馬さんでしたね。おごちそうならいいけれど」

次は熊になる。

先生「女の方、こんど、熊さんね」

女児はみんな四つばいになる。
男児は「バン、バン」といいながら鉄砲でうつまねをする。また、「弓で射るんだ」「ボイーン」という子どももいる。
全体が、がやがやしている。
先生「男の方、ずいぶん、にぎやかね。何してるんでしょう」
「てっぽうでうってるの」
先生「かわいいくまさんでしたね」
こんどは男児が熊になる。男児はみんな四つばいになって、がやがやする。時々、「ウウー」といってとびあがる子どももいる。
女児は「ほら、ごちそうよ」とえさを持ったしぐさをして、手をまわしてごちそうをあげる子どももいる。
次はあひるになる。
先生「こんどはあひるさんがきましたよ。女の方、あひるさんよ」
女児はすぐ出て来て、がやがやといって中腰になって歩くものが多い。
男児は耳をふさぐ。
先生「ずいぶん、やかましいあひるさんね」という。
女児は少ししずかになる。
先生「もっとひくい声で時々、グワ、グワとなくわね」
先生「こんどあひるさん、家によいでいって下さい」
女児は自分の席にかえる。
先生「こんど、男のあひるさん、およいで下さい」
先生には予定がある。子どもにはわかっていない。
ふだんは自由に表現できる子どもがさわぐ。先生は気があせる。
Rがとびあがる。
先生「Rちゃんのあひるさんはかえるさんじゃないかしら？まちがえたのじゃないかしら？」
女児がえさを「はい、はい」といってやる。
えさをたべているあひるもいる。
ピアノの音をきいていないあひるもいる。
先生「女の方もそうだけれど、おやすみのあと、お耳のわるいあひるさんになったみたい。Fさんのあひるさんは、いいお耳のあひるさんだったわね。」
次はリスになる。
先生「こんどはリスさんになりましょう」
女児のリスはお互いにはなし合ったり、ごちそうを食べたりする
男児は「どんぐり、どんぐり」といって手を出す。
女児は男児のところに食べにいく。
先生「女のリスさんね、こんどはとってもいいリスさんでしたよ」
女児が席にもどり次に男児がでてくる。
男児のリスは立って歩いたり、地面に顔をつけるようにして、はっているリスもいる。

先生「今度はとてもいいリスさんでしたね。先生、心配しちゃったわ。夏やすみ前はいいお耳でしたね」

次にもう一度、はじめからじゅんじゅんにつづけてする。

先生「ではね、はじめからじゅんじゅんにしましょうね。何の動物が出て来ました？はじめからじゅんばんにいきましょうね」

「リス」という子どもが多い。

先生「せんせいのおはなしをよくきいてね。考えてね」

子どもたち「ちょうちょ、うま、くま、あひる、りす」という。

先生「そうね、よくおぼえていたわね。こういう順番だったわね。それじゃ、順番にいまのように並んで歩くんですって。はい、歩いてちょうだい、右の方をむきましょう。ふつうに歩いていいですよ」

子どもたちはきゅうくつそうにしている。

先生「きゅうくつで歩けないときはどうすればいいのかしらね」

「足ぶみ」

先生「そうね」

子どもたちは、こんどは足ぶみをして進まない。

先生「動物だって、きれいに歩けるのよ」

先生は二回目の練習に入るときに、動物の行進に小鳥がでてくることを思い出す。

先生「そうそう、小鳥さんもでてきますよ。小鳥さんにいろいろのがあるわね。こういうのとか、こういうのとか、しかし、この小鳥さんはくちばしとしっぽだけの小鳥さんなの」という。子どもたちは「チュッ、チュッ」といって歩く。

先生「ほんとね、小鳥さんはチュッ、チュッといって歩くわね。だけど、この小鳥さんはゆっくり歩く小鳥さんなの。かわいい小鳥さんになってね。今度はゆっくり歩いてちょうだい」という。

子どもたちはゆっくりと歩く。

しかし先生の予定にある遊戯の小鳥のうごきのテンポと異なる。

先生「ゆっくりだけど、ずいぶんゆっくりね。くたびれちゃって、そんな小鳥さんいるかしら、こんな小鳥さん、先生、みたことないわ」

先生「あっそうね。こんどはちょうちょさんになってまわりますよ」

子どもたちはちょうちょになる。

先生「こんどはお馬さん」

先生「こんどはくまさん」と先生は次々と登場する動物をあげる。

子どもたちはそれぞれの動物のしぐさをする。

先生「こんどは、あひるさん」

子どもたちは「があ、があ」という。

先生「こんどはリスさんね。一回ずつでいいのね」

子どもたちは先生のことばにしたがって、それぞれの動物になる。

先生「こうしてみんなで歩いていくの。リスさんや馬さんになって行進をするの。〝動物の行進〟ていうの、やりましょうね」という。

先生「じゃくたびれたから、少しおやすみしましょう。いすにこしかけてね。おやすみするのは前より上手かしら」

子どもたちはみんなねるかっこうをする。ピアノの曲がおわり、子どもたちはおきる。

先生「じゃ、みんな、おかえりのしたくをしに自動車にのっていきましょう。みどり色のもあるし、青のもあるし、駐車場ですから順番ですよ。Ⓢちゃんからね。ひとりの人がぐるっとまわって、ついたら、次の人がいくのね。だまっているけどわかるでしょう？みんな運転していないけれど大丈夫かしら」

先生のいっていることをきいて「ブーブー」といって、エンジンをかけている子どももいる。

子どもたちは次々と出て行く。

先生は帰りじたくをして保育室にかえってきた子どもたちに、

先生「おかえりなさい」という。

子どもたちは次々と保育室にかえってくる。

先生「みんな同じ形だったかしらね。みんなスキップの自動車だったわね。先生のはね」といって、「ブー」とスムーズに走る。

子どもたちは先生のうごきをみて、

子ども「めだかみたい」という。

先生「みんなのはでこぼこ道だったのかしらね」

子どもたちは帰りじたくをして、いすにすわる。

先生「それじゃ、きゅうぴいさんのおうた、もう一度うたいましょうね」

先生はピアノをひく。

子どもたちはうたいはじめるが、声が小さい。

先生「きゅうぴいさん、おなかがすいちゃったらしくて、お声が小さかったですね」

子どもたちはうたいながら、ところどころ動作をつける。

子どもたちの声はとぎれ、とぎれになる。

先生「ちょっとわすれたとこがありましたね。じゃ、あそこ(黒板)に書いておきますからね。よくおぼえてくださいね」

十一時十五分

「まだ時間があるから、何かしてあそびましょうね」

いすさがしのゲームをする。

十一時三十分

いすさがしをおわる。

先生「またたくさん時間があった時にしましょうね。たくさんおやくそくがあったわね。せんせいのおはなしをちゃんときかなくちゃ。おやくそくをちゃんとおぼえていて、思い出してね。それでは、背中をまっすぐにして、さようなら」(つづく)